

『陸海軍喇叭譜』（1885）制定以前の陸軍フランス式ラッパ譜について（2）

Influence of the French-style Bugle Call on the Imperial Army of Japan in the Early Meiji Period (Part 2)

奥中 康人

文化政策学部 芸術文化学科

OKUNAKA Yasuto

Department of Art Management, Faculty of Cultural Policy and Management

『陸海軍喇叭譜』（1885）が刊行される以前の日本陸軍は、フランスのラッパ譜を用いたことが知られているが、それ以上の詳細はよく分かっていなかった。筆者は、すでに3点の手書きのラッパ譜を用いて調査を行ったが（奥中 2019）、その後、新たに2点のラッパ譜を閲覧する機会を得た。一つは、明治9年頃に野口吉右衛門というラッパ手が記したと思われるラッパ譜、もう一つは、明治15年に渡邊三四郎というラッパ手が記したラッパ譜である。これら5点のラッパ譜を比較検討することで、明治9年から18年までの期間に、陸軍がどのようなラッパ譜を用いたか、その実態をより詳細に明らかにすることが可能となった。調査の結果、フランスに起源をもつ50～70種類程度のラッパ信号が用いられていたこと、隊号は明治9年以降に改定されたこと、そして、2重奏や3重奏を含む6曲のラッパ行進曲が存在したことなどが判明した。

The purpose of this paper is to show an influence of French bugle call on the Imperial Army of Japan. Although it's a well-known fact that the Army used French bugle calls before December 1885, little is known about further details. I had already researched three bugle music scores, and now I had access to two new ones. One bugle score was probably written by a bugler named Noguchi Kichiemon around 1876, and the other by a bugler named Watanabe Sanshiro in 1882. By comparing these five bugle scores, it is possible to show what kind of bugle scores were used by the Army from 1876 to 1885.

As a result of my research, I found that many of the bugle calls originated in France and that six bugle marches, including duets and triplets, were being played at the time.

1. はじめに

ことの始まりは、今から13年前。古書店のカatalogに載っていた『喇叭符号手帳』（1896）という群馬県の消防ラッパ譜を入手したところから始まった。宅急便で届けられたその楽譜を見ると、手書譜で、多数の合図等が収録されているのだが、五線譜上の音価（音の長さ）や音高が、かなり乱雑に書かれていたので、メロディを読み取ることができず、ずいぶんガッカリした（その後、他のラッパ譜を参照することで、ようやく解読できた）。

楽譜だけでなく、曲のタイトルにも謎が多く、たとえば「旧丸ス」「中丸ス」というタイトルの「丸ス」が、フランス語の「marche」（行進曲）を意味することに気づくのに、ずいぶん時間がかかった。「丸ス」がフランス語ということから、すぐに想起するのは、1871年から1885年まで、日本陸軍がフランス陸軍の強い影響下にあり、ラッパも、フランスのラッパ譜を使用していたことである。そうすると、フランスのラッパ行進曲は、明治初期の陸軍を経由して、群馬に伝播したのではないかと、という仮説を立てることができたのだが、明治初期の陸軍が用いたフランス式ラッパ譜についての先行研究が、ほぼ存在しなかったため、具体的に検証することができず、推測の域に留まるしかなかった（奥中 2018）。

そこで筆者は、靖国神社偕行文庫に所蔵されている手書きの楽譜（2点）と、名古屋鎮台の『喇叭記帳』の合計3点を詳細に分析することで、まずは1883～1885年頃の陸軍のフランス式ラッパ譜の全体像を明らかにしようとしたのが『陸海軍喇叭譜』制定以前の陸軍フランス式ラッパ譜（奥中 2019）で、確かに、上記の「旧丸ス」や「中丸ス」もここに含まれていることは判明した。つまり、19

世紀のフランスと明治初期の陸軍と群馬が、つながったのである。

しかし、偕行文庫のラッパ譜に収録されている行進曲は、非常に長大なもので、「旧丸ス」や「中丸ス」は、そのうちのごく一部分にすぎないことが、新たに明らかになってしまった。このように長大な行進曲が、まだ唱歌教育も十分に展開していない明治初期に存在したこと自体、これまでの研究では指摘されたことがなく、おそらく新発見と言ってよいかと思うのだが、それ以上のこととなると何も判らず、より大きな謎となって残った。「旧丸ス」や「中丸ス」についても、たとえば、タイトルにある「旧」や「中」が何を意味するのかもわからなかった。

ところが、最近になって、上記3点の楽譜より古い時期に記された楽譜2点を閲覧する機会を得た。これにより、号音（コール）や行進曲について、多くの事を解明する見通しを得ることができた。本稿は、拙論（奥中 2019）の訂正を含む続編で、かつて分析した3点の楽譜に、新たに確認できた2点の楽譜を追加し、つまり、計5点の楽譜を比較・考察することで、当時、用いられていたフランス式のラッパ号音と行進曲の実態を、より正確に明らかにすることを目的としている。

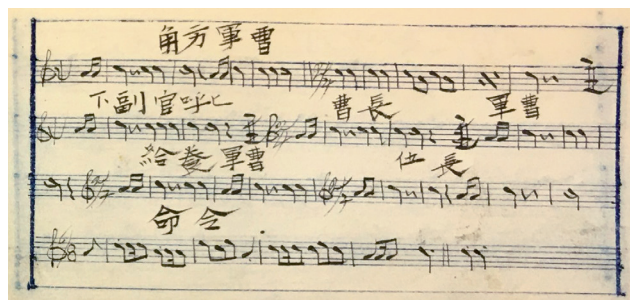
2. 対象となる楽譜について

野口吉右衛門の楽譜

埼玉県南埼玉郡宮代町の『宮代町史 通史編』に記されているコラム「西南戦争にいった人々」には、姫宮（宮代町）の野口吉右衛門という人物が、西南戦争に従軍したことを紹介している¹。

野口吉右衛門は、嘉永五年三月四日に生まれ、明治八年佐倉歩兵第二連隊に入営し、ラッパ兵として西南戦争に参加している。手控によると、明治十年二月二十六日東京新橋から陸蒸気で横浜に至り、同日横浜から名古屋丸で出発し、同月二十八日神戸に至り、下関を経て三月三日博多に入った。同日博多湊から福岡宿に入り一泊し、翌四日福岡を発し、二日市宿、松崎宿、久留米宿、金松宿、南関、高瀬宿、原倉村、竹崎村、大崎村、串良宿、鹿児島などを転戦し、翌十一年三月凱旋している。

この短い紹介文に添えて、1枚の写真が「ラッパ兵が使用していた楽譜」というキャプションと共に掲載されている。



宮代町立図書館に問い合わせたところ、この楽譜は宮代町郷土資料館に所蔵されていることがわかった。

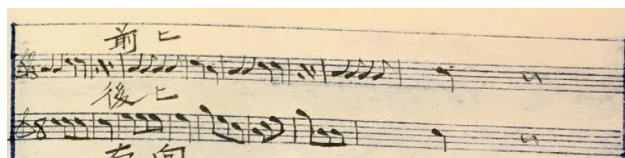
現在、同館に野口家文書として寄託されているこの楽譜（以下、『野口』と略記）は、縦8センチ、横16センチの横長の手帳で、この手帳自体にタイトルは記されていない。全82頁のうちの72頁に、黒インクで楽譜・音符が手書きで記されている。青インクの上線（1頁につき4段）は、丁寧に等間隔で記されているものの、線のところどころに乱れがあるため、印刷された五線譜ではなく、何か器具を用いて、手で線を引いたように見える。

先の引用文と、宮代町郷土資料館からのご教示いただいた補足情報によって、野口の経歴をいま一度整理しておくと、野口吉右衛門は明治8年（1875）5月2日（当時23歳）、徴兵により東京鎮台の歩兵第2聯隊（佐倉）に入隊した（第3大隊第3中隊）。同年12月16日に生兵から二等卒に、明治9年（1876）4月5日に二等喇叭卒となった。西南戦争がはじまると、明治10年2月26日に新橋を出発して横浜・神戸経由して博多に到着。福岡から熊本、宮崎、鹿児島を巡る。同年9月15日、西南戦争が終結する間際になって一等喇叭卒に昇格。翌年の11月3日に凱旋し、退役したという。

『野口』には、いつ誰が書いたのかを示す情報は、一切記されていないが、野口吉右衛門が所有していたと伝えられているので、常識的に考えれば、ラッパ手となった野口吉右衛門が、明治9年（1876）4月あたりに——数多くのラッパ譜を忘れないようにするために——記した楽譜とみるのが妥当と思われる。本稿で紹介するラッパ譜のなかでは最も古い楽譜であり、しかも、西南戦争以前に作成された唯一の楽譜である。

音符の記譜は、「ソ」の音を「ラ」の位置（つまり、ト

音記号の五線譜の第2線ではなく、第2間）に記す、明治時代の手書きラッパ譜に特有の習慣を共有している。また、付点音符の点や、8分音符、16分音符の符尾が省略されていることがあり、小節線の引き方も不正確なため、拍数の辻褄があわないところもある（「前ヒ」の第1小節目は、「ララドド」と記されているが、「ソソドド」である。また、第1小節目の2番目、4番目の音は、本来は8分音符だが、符尾が略されている）。



だが、五線譜のルールから外れているとしても、個人的な備忘録として作成されたのであれば、正確な楽譜である必要はない。小節線の誤記は、隣に手本となるラッパ譜を置いて、それを写譜したときにはほとんど起こり得ないので、野口は自分の記憶を紙に書き留めたことになる²。つまり、間接的にかれの記憶力の良さも示している。

『野口』の内容は、数曲の「行進曲」から始まり、その後に「諸号音」（64曲）と「隊号」（3曲）が中間部分に、後半部分に再び数曲の「行進曲」という順番で収録されているので³、おおよそ計画的に筆記したように見える。

渡邊三四郎『歩兵喇叭譜簿』

『歩兵喇叭譜簿』は、桑畑哲也氏が所有する楽譜で、2021年春に借覧する機会を得た。縦16.5cm、横23cmの和綴じ本で、全26丁。茶色の表紙には何も記されていないが、一丁裏の中央には大きく「歩兵喇叭譜簿」とあり、その両脇に「明治十五年／第七月記之」と日付もある。



また、26丁表には「歩兵第三聯隊第一大隊／第二中隊／大字勝屋 渡邊三四郎」と記されているので、これらを素直に信じるなら、渡邊三四郎という人物が、明治15年（1882）7月に記したラッパの楽譜とみてよいだろう。つまり、『野口』（1876）より新しく、後述する『偕行A』『偕行B』（1883～84）、『喇叭記帳』（1885）よりは古い。「大字勝屋」とは、現在の新潟県阿賀野市勝屋のようである⁴。当時、新潟県は東京鎮台の管区だったので、渡邊は、

歩兵第3聯隊第1大隊でラッパ手になった。仮に明治15年（1882）の時点で20歳代だったとすれば、嘉永5年（1852）生まれの野口吉右衛門の少し下の世代で、1850年代後半から60年代前半あたりの生まれだろうか。

線間が均等に記された五線譜（1頁あたり8段）は、版木などを使った簡易印刷のようにも見える。音符は手書きで、やはり「ソ」の音を「ラ」の位置に書くスタイルである。明らかな誤記や欠落をいくつか発見することができるが、付点音符の点、符尾などの省略は『野口ラッパ譜』より少なく、楽譜としての完成度は高い。しかも、3丁表～17丁裏が「行進曲」、18丁表～22丁裏が「諸号音」（67曲）、23丁表裏が「隊号」（23曲）と、きちんと3つに分類されているので、計画的に筆写を進めたようである。渡邊は、五線譜のルールをよく理解していて、手本となるラッパ譜を横に置いて筆写したのかもしれない。

政符金助『偕行A』『偕行B』

政符金助のラッパ譜と、中島兼重の『喇叭記帳』については、すでに（奥中 2019）で詳しく紹介をしたので、繰り返しのなるが、おおよその概要だけを述べておく。

靖国神社偕行文庫には「明治二十年前後の陸海軍ラッパ譜」として3点の楽譜が所蔵されている。この3点を本稿では『偕行A』『偕行B』『偕行C』としておくと、『偕行C』は、明治19年（1886）に刊行された印刷譜⁵、つまり、『陸海軍喇叭譜』（1885）以降の楽譜なので、この研究対象からは外す。

『偕行A』⁶と『偕行B』⁷の2点は、『陸海軍喇叭譜』（1885）以前に作成された筆写譜で、筆記者と思われる政符金助は慶応3年（1867）生まれ、陸軍教導団歩兵科でラッパを専門的に学び、名古屋鎮台歩兵第18聯隊（豊橋）第3大隊喇叭長になった。政符は、教導団でフランス人ラッパ教師ダグロンから学んだ可能性が高いため、とりわけ重要な楽譜である。この2点が作成された年代は明記されていないが、おそらく明治16年（1883）年5月から明治17年の夏頃までの時期に作成されたと推定される⁸。

『偕行A』の「諸号音」は72曲（重複を省く）、「隊号」は32曲、「行進曲」は4か所に分けて記されている（行進曲に個々のタイトルは記載されていない）。

『偕行B』には、長大な「行進曲」だけが収録されていて、『偕行A』の「行進曲」とほぼ同一である。

中島兼重『喇叭記帳』

『喇叭記帳』は、名古屋鎮台歩兵第6聯隊第3大隊第1中隊に属する中島兼重という人物の名が記されたラッパの楽譜で、明治18年（1885）10月3日の日付がある。筆記者と思われる中島兼重の経歴等については、まったくわからない。『偕行A』『偕行B』の政符金助と同じ名古屋鎮台であるが、政符金助は第18連隊（豊橋）のラッパ長であり、第6連隊（名古屋）の中島との接点は無かっただろう。

全42頁のうち、後半（22～42頁）は、1885年12月に制定された『陸海軍喇叭譜』と同一のラッパ譜が収録されているので、対象となるのは前半（1～21頁）である。そこには「諸号音」が53曲、「隊号」が37曲、「行進曲」が1曲収録されている。記譜は非常に雑で、五線譜のルールを大きく逸脱していることもあり、解釈はきわめて難し

いが、他のラッパ譜を参照することによって、なんとか理解することができる。

3. 「諸号音」と「隊号」

以上の5点のラッパの楽譜を対象とするが、『偕行B』の収録曲は行進曲だけなので、「諸号音」と「隊号」を検討する本章ではこれを省き、4点の楽譜を対象とする。

諸号音

各楽譜に収録されている「諸号音」の収録数は、

『野口』（1876）	63曲
『歩兵喇叭譜簿』（1882）	67曲
『偕行A』（1883～4）	72曲
『喇叭記帳』（1885）	53曲

となっており、曲数に少しバラつきがあるが、おおよそ似通っている。なかでも『偕行A』（72曲）が最も多いのは、政符金助が教導団でラッパ学び、ラッパ長となったこと無関係ではないだろう。収録数が少ない『喇叭記帳』（53曲）は、名古屋鎮台というローカルな現場で、実際に自分が使用するラッパ譜だけを記載したことに起因するのかもしれない。

これらの「諸号音」の多くは、同時代のフランスの複数のラッパ譜に起源を求めることができるが、すべてを説明すると煩雑になるため、ここでは、1875年のフランス陸軍のラッパ譜（*Règlement du 12 juin 1875 sur les manœuvres de l'infanterie*。以下『仏1875』と略記）に収録されている51曲を基準として、対照表【表1】（30頁）⁹を作成した。

『仏1875』の51曲のうち、『偕行A』は49曲を収録していて、やはり最も多い。また、4冊すべてに収録されている曲は30曲ある。この30曲は、明治4年から明治18年まで、陸軍においてラッパ手たちが必ず学んでいたラッパ譜と判断して差し支えないだろう。

たとえば、タイトルはそれぞれの楽譜で異なっているが、「ラシヤン」、「天皇礼式」、「礼式」、「をうしやん」、つまり、フランスのラッパ譜「Aux champs」は、明治初期の文献に散見される曲で、この当時の定番レパートリーとして頻繁に吹奏されたことを、ここでも再確認することができる。そればかりでなく、他にも、

L'Appel（点呼）
La Soupe（食事）
Aux malades（診断）
Extinction des feux（消燈）

あるいは、とくに軍事教練の際に用いられる、

En avant（前へ）
En retraite（後へ）
Par le flanc droit（右向け）
Par le flanc gauche（左向け）
Commencez le feu（打方はじめ）

Cessez le feu (打方やめ)
 Couchez-vous (伏せ)
 Levez-vous (起きろ)

なども、4点すべてに収録されている。

音楽的な観点からどうしても注目したくなるのは、単なる合図、信号音というよりは、それなりに小節数があり、音楽とみなせるようなラップ譜、

L'Assemblée (譜例1、集合)
 Le pas gymnastique (譜例2、駆足)
 Le pas de charge (譜例3、突撃あるいは坂路)
 Le Réveil (譜例4、起床)
 La Retraite (譜例5、退却)

などで、これらは4点の楽譜に共通して収録されている。



譜例1 L'Assemblée



譜例2 Le pas gymnastique



譜例3 Le pas de charge



譜例4 Le Réveil



譜例5 La Retraite

現在では「Aux Champs」ほど知られている曲ではないが、当時は、よく吹奏されていたレパートリーだったかもしれない。それぞれの楽譜(譜例1~5)を見れば、それなりに高いレベルの演奏技術が必要な曲であることが判るだろう。



譜例6 La Messe

フランスの「La Messe」(譜例6)は、「タイクン或ハソシキニモユ」として『野口』にのみ収録されていて、それ以降の3点の楽譜には存在しない。したがって、明治9年(1876)頃には演奏されていたが、ある時期から、遅くとも明治15年(1882)以降には、演奏されなくなったことを示唆している。



譜例7 Halt

「La Messe」とは逆に、「Halt」(譜例7、止まれ)は、『野口』には収録されていないが、後の3点には収録されている。それゆえ「Halt」は、明治9年の時点では演奏されていなかったが、それ以降のある時期から演奏されるようになった、と見えるかもしれない。だが、必ずしもそうとは言いきれないだろう。軍事教練において最も基本的な合図である「止まれ」が、明治9年の時点で存在しなかったとは考えにくいからである。しかも、「Halt」は、わずか1小節(たった6音)の短い合図にすぎない。実際には吹奏されていたものの、『野口』には書き残されなかった可能性のほうが高い¹⁰。

もちろん、先に例をあげた「タイクン或ハソシキニモユ」(「La Messe」)も、実際は後年になっても存在し、吹奏されていたが、3人の筆者は楽譜に残さなかった、という可能性もゼロではない。しかし、短く単純な信号音の「Halt」と、それなりに小節数が多く、広い音域を使う「La Messe」とを、同列に論じるわけにはいかないだろう。「La Messe」は、10小節とはいえ、演奏技術の面でも簡単な曲とは言えない。それゆえ、断定はできないものの、この曲が未収録であることは、演奏されなくなったことを示しているように思える。教導団で学んだ政府がこの曲を記していないことも大きな理由である。

異なるバージョン

「喫飯」、「食麦」、「喫食」、「しょくじ」、つまり食事の合図「La Soupe」も、4点の楽譜に共通して掲載されているラッパ譜である。あの医薬品のCMでおなじみのラッパの合図「食事」と少し似ていることが気になるが、それよりも、この曲に2つのバージョンが存在することに注目したい。



譜例8 La Soupe



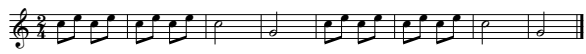
譜例9 La Soupe

『野口』の「喫飯」の第1小節の1拍目は、〔タン・タタ〕（8分音符1個+16分音符の3連符）というリズムで、このパターンが繰り返されるが（譜例8）、『歩兵喇叭譜簿』の「食麦」は、その逆で、〔タタタ・タン〕（16分音符の3連符+8分音符1個）というリズムになっている（譜例9）。

『偕行A』の「喫食」は、〔タタタ・タン〕型だが、『偕行A』後半には異稿をまとめたページがあり、そこには〔タン・タタタ〕型も掲載している。『喇叭記帳』の「しょくじ」は、音符の符尾が不明瞭なため、どちらのバージョンなのか判断できない。



譜例10 「喇叭ヨヒ」『野口』



譜例11 「喇叭呼」『歩兵喇叭譜簿』

同じように、「Le Rappel (aux clairon)」(ラッパ手呼び)も、すべてのラッパ譜に掲載されているが、2つのバージョンが存在する。『野口』は、16分音符と4分音符で記され、全体で4小節だが（譜例10）、『歩兵喇叭譜簿』は、同じメロディを倍の音価で記譜しているので8小節になる（譜例11）。『偕行A』には、4小節バージョンが記載されていて、異稿ページに8小節バージョンを併記している。

『喇叭記帳』は、判読しにくいのが、4小節バージョンを採用しているようだ。記譜上の音価は異なっても、演奏速度を1/2あるいは2倍にすれば、同じメロディなのだが、当時は、これを相違と認識していたらしい。

これ以外にも、いくつかのラッパ譜については（たとえば「掃除」）¹¹、リズムや記譜などが異なる稿が並存していることから、どうやら陸軍の中で完全には統一されていなかったことが窺える。

おそらく、ラッパ伝習の実態は、口頭伝承によるものなので¹²、誤伝・訛伝に起因するバリエーションが生じることは、それほど驚くことではない。実は、フランスの複数のラッパ譜を観察すると、「La Soupe」や「Rappel aux clairons」等に、同じバリエーションがすでに存在していたことが判るので¹³、日本に入ってくる以前に、フランスでこの問題は生じていたことになる¹⁴。

ここまでは、『仏1875』に収録されている曲を基準に

概観してきたが、『仏1875』には収録されていないラッパ譜もある。たとえば、日本の4点に収録されている2つの転換の合図、

Changer de direction a droite（右方転換）
Changer de direction a gauche（左方転換）

あるいは、5つの「Ralliement」（集合）の合図、

Ralliement par section
Ralliement par demi section
Ralliement par Quatre
Ralliement sur le Réserve
Ralliement sur le bataillon

は、『仏1875』には収録されていないが、1869年のラッパ譜（*Méthode de clairon d'ordonnance*、以下『仏1869a』と略記）には収録されている¹⁵。

ただし、日本側のラッパ譜の諸号音のすべてが、この『仏1875』『仏1869a』の2冊のラッパ譜で完全にカバーできる訳ではない。たとえば、『野口』の「外套解」（『歩兵喇叭譜簿』『偕行A』の「外套着脱」）のように、筆者が数十冊のフランスのラッパ譜を探したものの、未だ発見することができないものもある。

礼式「靖国神社参拜式」の変遷

以前、拙論（奥中 2019）で取りあげた『偕行A』の「靖国神社参拜式」は、謎の多い礼式曲であったが、『野口』と『喇叭記帳』を参照することによって、変遷のおおよそのプロセスが判明した（『歩兵喇叭譜簿』には関連するラッパ譜はない）。



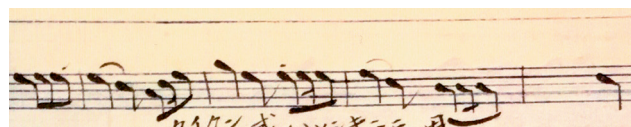
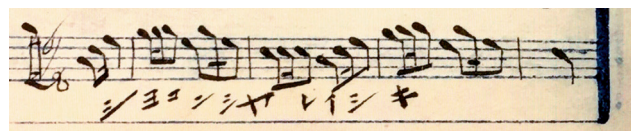
譜例12 「靖国神社参拜式」『偕行A』



譜例13 「（タイトルのない靖国神社参拜式）」『偕行A』

再確認しておく、『偕行A』には、曲の長さが異なる2つのバージョンの「靖国神社参拜式」が掲載されている。「靖国神社参拜式」というタイトルがついた16小節の曲（譜例12）と、もう一つは、タイトルは記されていないが、「靖国神社参拜式」の前に7小節、後に16小節が追加されている39小節の曲で、これを「(タイトルのない靖国神社参拜式)」(譜例13)とする。

『野口』には、「シヨコンシヤレイシキ」という8小節の曲が収録されており、これは「(タイトルのない靖国神社参拜式)」(39小節)の前半とほぼ同一である¹⁶。



また『野口』には、これとは別に、「道中ヲコシ」という32小節の曲も掲載されており、これは「(タイトルのない靖国神社参拜式)」の後半32小節とぴったり一致する。

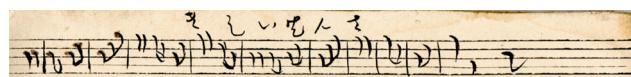


つまり、「シヨコンシヤレイシキ」と「道中ヲコシ」とを合わせた曲が「(タイトルのない靖国神社参拜式)」になる。言うまでもなく「シヨコンシヤ」とは、靖国神社の旧称、招魂社である(明治12年6月、靖国神社に改称)。

このことから、明治9年頃の招魂社ではラッパ手が、ファンファーレのように「シヨコンシヤレイシキ」(8小節)を吹奏し、直後に「道中ヲコシ」(32小節)を連続して吹奏する習慣があったのかもしれない。

その後、「シヨコンシヤレイシキ」+「道中ヲコシ」の前後が省略されて、「道中ヲコシ」前半16小節だけが単独で吹奏されるようになり、この部分に「靖国神社参拜式」というタイトルが付けられたようだ。

『喇叭記帳』に収録されている「さんはいしき」は(判読するのが困難だが)、「靖国神社参拜式」(16小節)と同一である。



ところで、拙論(奥中 2019)を執筆した時点では、フランスの楽譜に該当曲を見つけることができなかったため、「靖国神社参拜式」が日本で作曲された可能性を示唆した。しかし、その後、1877年のフランスのラッパ譜¹⁷に掲載されている「La diane」が、「(タイトルのない靖国神社参拜式)」とほぼ同じであることが判明した。同時に、「La

diane」は、元々は3つの別々の曲(「La diane des Zouave」「Rigodon」「Mère Michel」)が合わさった曲だといわれていることも判明した¹⁸。そうすると、日本で「シヨコンシヤレイシキ」と「道中ヲコシ」という2つの曲が合わさって「(タイトルのない靖国神社参拜式)」になったのではなく、——「La Soupe」や「Rappel aux clairons」のように——伝承の系譜が異なることに起因する差異かもしれない。つまり、「La diane des Zouave」が「シヨコンシヤレイシキ」として、「Rigodon」+「Mère Michel」が「道中ヲコシ」として『野口』には記載され、これとは別に、「La diane」が「(タイトルのない靖国神社参拜式)」として伝わり、前後が省略されたものが「靖国神社参拜式」となって『偕行A』に記載された可能性もある。

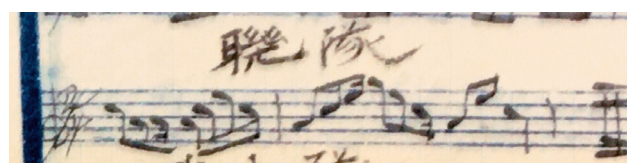
いずれにせよ「道中ヲコシ」の前半16小節が「靖国神社参拜式」として残ったのだが、明治18年12月に『陸海軍喇叭譜』が制定され、靖国神社では「国ノ鎮メ」が吹奏されるようになると、「靖国神社参拜式」は後世に引き継がれることなく、完全に忘れ去られた。

隊号(オルフラン)【表2】(31頁)

隊号は、

『野口』	4曲
『歩兵喇叭譜簿』	23曲
『偕行A』	37曲
『喇叭記帳』	37曲

となっていて、圧倒的に『野口』の収録曲数が少ない。野口吉右衛門が記したのは「聯隊」「壺大隊」「貳大隊」「三大隊」の4つにすぎず、このうち「聯隊」とあるのは、おそらく野口自身が所属していた歩兵第2聯隊の隊号(つまり、自分が演奏する隊号だけを記載した)と思われるので、明治9年当時、制定されていた隊号が極端に少なかったことを示しているわけではないようだ。

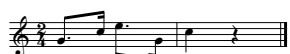
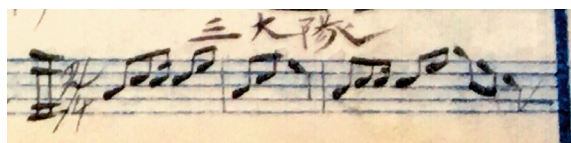
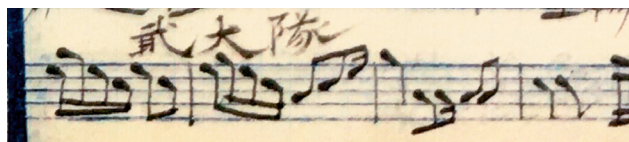


ただし、この『野口』の「聯隊」、つまり歩兵第2聯隊の隊号は、他の3点のラッパ譜に掲載されている隊号「歩兵第二聯隊」(譜例14)とは異なっている点に注意したい。これは、『野口』が作成された時期以降に、聯隊の隊号が改められていたことを裏づける¹⁹。



譜例14 「歩兵第二聯隊」『偕行A』

また、『野口』の「貳大隊」「三大隊」の隊号も、後の『偕行A』『喇叭記帳』の該当曲(譜例15、16)とは明らかに異なっているため、これも改定されていたことになる。



譜例15 「歩兵二大隊」『偕行A』



譜例16 「歩兵第三大隊」『偕行A』

多くの隊号は、陸軍の固有の組織・部隊に対して与えられたラッパ譜なので、いくつかの例外を除いて、フランスのラッパ譜を流用することなく、ほぼオリジナルとして作曲されたようだ。

4. 行進曲（マルス）

冒頭で述べた通り、『偕行B』には、長大な行進曲が収録されている。この行進曲は、全体で2026小節²⁰。多くは2/4拍子（まれに6/8拍子）、音楽的にみると8小節（例外的に10小節、12小節）単位のメロディで²¹、そこに終止線が引かれていること、さらに終止線の上にフェルマータも記されていることから、ここで区切ることができる。

楽譜には記載されていないが、便宜的に、このひとつの区切りに対して1番、2番…と順に番号をつけると、『偕行B』の行進曲は、1番から240番までとなる。ただ、『偕行B』は、1～240番を整然と並べているだけで、それ以上の情報（例えばタイトルなどの文字情報等）が全く記載されていないので、この楽譜だけでは、はたして1～240番を連続して演奏したのか、実際には、いくつかのグループに分けていたのか、任意に選択をして演奏していたのか等、具体的なことは何もわからず、課題として残されていた。

ところが、新たな資料である『野口』や『歩兵喇叭譜簿』に掲載されている行進曲には、いくつか曲名が記載されており、これを手掛かりにすることによって、『偕行B』の行進曲の全体像を、また相互に比較参照することで、行進曲の部分的な削除や追加など、その変遷のプロセスをおおよそ明らかにすることが可能となった。

『野口』には、

〔タイトルのない行進曲〕

帰営行進

新帰営進

舊マルス

ディレエシキマルス

という5曲の行進曲が、『歩兵喇叭譜簿』には、

中マルス
新マルス
旧マルス
楽マルス
野営マルス
新野営マルス

というタイトルの6曲の行進曲が収録されている（いずれもそれぞれの楽譜における収録順）。

この2点の楽譜の行進曲で、同じタイトルの行進曲は「旧（舊）マルス」のみだが、楽譜の内容をそれぞれ照合すると、他にも3曲が一致している（後述するように、部分的には異なる）。「新マルス」と「新野営マルス」に対応する曲は、『野口』には存在しない。

また、『歩兵喇叭譜簿』の6つの行進曲は、『偕行B』の1～218番と、ほぼ一致している（これも後述するように、部分的に異なるところがある）。これを、『偕行B』の曲順を基準として表にすると以下のように対応していることがわかる【表3】。

【表3】

野口 1876年	歩兵喇叭譜簿 1882年	偕行B 1883～1884年
舊マルス	旧マルス	1～26
〔タイトルなし〕	中丸ス	27～116
	新マルス	117～146
帰営行進	野営マルス	147～180
新帰営進		
	新野営マルス	181～194
ディレエシキマルス	楽マルス	195～214
		215～240

とりあえずは、便宜的に『歩兵喇叭譜簿』で用いられているタイトルを用いて、個々の行進曲について説明する。

「旧マルス」【表4】（32頁）

『野口』の「舊マルス」は、1番から30番までの全248小節²²。多くは、2/4拍子で、メロディは8小節単位だが、17～18番、21～22番は6/8拍子、23～24番だけが12小節という例外的な小節数になっている。

『歩兵喇叭譜簿』の「旧マルス」は、ほぼ『野口』の「舊マルス」と同じだが、17～18番、21～24番（つまり、拍子や小節数で例外的な小節）が存在せず、全体で192小節になっている。

『偕行B』の3～26番は、『歩兵喇叭譜簿』の「旧マルス」と基本的には同一だが、『偕行B』は、冒頭に16小節（1～2番）が増えて、全体は208小節となる。増えた冒頭16小節の前半8小節（『仏1869a』の「Marche」（譜例17））²³は、『歩兵喇叭譜簿』の「諸号音」にも、「発程用意」として収録されており、タイトルから察するなら、行進が始まることを予告する合図として、行進曲の冒頭で演奏する習慣があったことを示唆している²⁴。



譜例17 Marche

『喇叭記帳』に唯一掲載されている行進曲（1～25番、全208小節）は、『歩兵喇叭譜簿』『旧マルス』と基本的には同様だが、最後の16小節（『偕行B』の25～26番）が記されていない。また、冒頭には『偕行B』と同じ「Marche」（8小節）を含む16小節、さらにその前に16小節（譜例18）²⁵が置かれており、そこには「六聯隊まるす」というタイトルがつけられている²⁶。



譜例18 六聯隊まるす

「中マルス」【表5】（33頁）

『歩兵喇叭譜簿』の「中マルス」は非常に長大で、1番から92番までの全736小節である（すべて8小節単位）。この曲は、『野口』に収録されているタイトル不記載の行進曲とほぼ同一で、こちらは1番から86番までの全688小節となる²⁷。両者とも、冒頭には「Marche」（譜例17）、つまり「発程用意」が置かれている。

『歩兵喇叭譜簿』『中マルス』には、『野口』の11～12番（16小節）が存在しないが、この16小節はすべて6/8拍子である。逆に、「中マルス」の41～48番（64小節）が、『野口』には存在しない。

『偕行B』では、27～116番（全720小節）が「中マルス」にあたり、『歩兵喇叭譜簿』との相違点は、冒頭の16小節の有無だけで、あとは一致している²⁸。

「新マルス」【表6】（34頁）

前述のとおり、「新マルス」は『野口』には収録されておらず、『歩兵喇叭譜簿』が初出となる。この「新マルス」は全272小節（1～34番）だが、『偕行B』の該当曲は少し短く、全240小節（117～146番）で、『歩兵喇叭譜簿』『新マルス』の21～24番の32小節が欠落している。この部分もすべて、6/8拍子である。

「新マルス」に特徴的なことは、『仏1875』に収録されている2曲の行進曲、「Marches pour clairon seul」と、「Marches avec tambours et clairons réunis」を使っていることが確認できる点である。ただ、フランスのラッパ譜（譜例19）と『歩兵喇叭譜簿』29～30番は、6/8拍子だが、『偕行B』の141（譜例20）～142番は2/4拍子になっている。



譜例19 Marches avec tambours et clairon réunis Huitième marche



譜例20 『偕行B』141番

また、フランスの「Marches pour clairon seul」5番後半は、3連符が多用されているが（譜例21）、これに対応する日本側の楽譜『歩兵喇叭譜簿』8番と『偕行B』124番では、3連符を避けるように、巧妙にアレンジされている。しかも、『歩兵喇叭譜簿』と『偕行B』はリズム・音価が異なっているが、音の巡り自体は、同一になっている（譜例22、23）。



譜例21 Marches pour clairon seul 5番後半



譜例22 「新マルス」8番 『歩兵喇叭譜簿』



譜例23 『偕行B』124番

「野営マルス」と「新野営マルス」【表7】（35頁）

『野口』『帰営行進』は、1～20番の全200小節で、最初から最後まですべてが10小節単位になっている点が、音楽的には少し風変わりである（なにか特別な意味があるのかもしれない）。「帰営行進」のあとには、「新帰営進」（1～12番、全96小節）が続く。「新帰営進」のほうは、8小節単位である。

『野口』の「帰営行進」と「新帰営進」を合わせたものが、『歩兵喇叭譜簿』の「野営マルス」（1～34番、全340小節）にあたる。ただし、『野口』『帰営行進』の13～15番、17～18番、20番（60小節、多くは6/8拍子）が欠落していて、「新帰営進」の6番と7番の間には、80小節（21～28番）が増えている。また、『野口』『新帰営進』は、8小節単位であったが（譜例24）、『歩兵喇叭譜簿』の該当箇所（15～34番）は、すべて10小節になっている（譜例25）。



譜例24 「新帰営進」1番 『野口』



譜例25 「野営マルス」15番 『歩兵喇叭譜簿』

『歩兵喇叭譜簿』では、さらに「新野営マルス」（1～14番、全140小節、10小節単位）がその後に続いている。

『偕行B』の147～194番は、『歩兵喇叭譜簿』の「野営マルス」「新野営マルス」と完全に一致している。

「楽マルス」【表8】（36頁）

『野口』の「デイレエシキマルス」は、ラッパの2重奏（1～11番）（1番：譜例26）と3重奏（12～17番）（16番：譜例27）の二つの部分から構成されている（全144小節）。



譜例26 「デイレエシキマルス」1番『野口』



譜例27 「デイレエシキマルス」16番『野口』

タイトルの「デイレエシキマルス」は、「大礼式マルス」転訛したものか。

『歩兵喇叭譜簿』でこれに対応するのが「楽マルス」で、2重奏が1～12番、3重奏が13～20番（全168小節）なので、144小節の「デイレエシキマルス」よりも少し長い。

『偕行B』では195～214番が「楽マルス」と完全に一致しているが、その後に「楽マルス」には存在しない215～218番（32小節）が続いている。

「デイレエシキマルス」7番は12小節で、それに該当する「楽マルス」7番が8小節になっており²⁹、逆に、「デイレエシキマルス」14番は8小節で、それに該当する「楽マルス」15番が12小節になっているが、この微妙な違いが何を意味するのかも、よくわからない。

ラッパの2重奏や3重奏自体は、フランスのラッパ譜にも存在するものの、それほど多くはなく、現時点では、「楽マルス」と同じ曲を、フランスのラッパ譜の中に見つけることはできていない（日本で作られた曲である可能性もある）。

また『歩兵喇叭譜簿』のタイトル「楽マルス」の「楽」は「らく」と読むのか、「がく」と読むのかも判断できないが、常識的に考えれば、「楽隊」「軍楽」「音楽」を意味する「がく」と読むべきだろう。だが、長大な行進曲の最後尾であることから（「千秋楽」「楽日」の用法の）「らく」なのかもしれない。

5. 考察

以上、『野口』、『歩兵喇叭譜簿』、『偕行A』、『偕行B』、『喇叭記帳』に掲載されている「諸号音」や「隊号」、および「行進曲」を紹介しつつ、比較をしてきたが、ここから以下のようなことが読み取ることができる。

諸号音

「諸号音」は、約40曲が共通のレパートリーとしてすべてのラッパ譜に記載されていることから、少なくともこの約40曲を、当時のラッパ手たちが習い覚えていたと判断してよいだろう。ただし、ラッパ譜への記載／不記載が、ただちに演奏（軍隊における使用）の有無を示すわけでは

ない。記載されているが、実際には吹奏されなかった曲、記載されていないが、実際には吹奏された曲もあると思われるので、ここで明確な数字を提示することはできないが、最も多くの曲を収録した（教導団に由来する）『偕行A』が72曲、最も少ない（歩兵第18聯隊に由来する）『喇叭記帳』の53曲、4点に共通するのが約40曲という数字が、おおよその目安にはなるだろう。

これらの「諸号音」のほぼすべては、フランスのラッパ譜に起源を求めることができる。しかし、4点のラッパ譜を丁寧に比較すると、いくつかの号音については微妙に異なる。このことは、この時期の陸軍の中でラッパ譜が完全に統一されていなかったことを示している。また、このバリエーションは、日本で生じたものではなく、すでにフランスで発生していたものが、そのまま日本に持ち込まれたと考えられる。『陸海軍喇叭譜』（1885）は、陸軍（フランス式）と海軍（イギリス式）のラッパ譜が異なることから生じる不都合を解消するために制定されたが、陸軍の中にも、同種の問題が存在していたことになる。

隊号

「隊号」については、新しい組織、部隊が設立されると、それに応じた新しい隊号が作られ、次第に増加する傾向が、この短い期間の間でも確認できると、『野口』の頃と、それ以降では、隊号が改正されていたことが確認できた。ただし、『野口』に記載されている隊号の数が極端に少ないため、明治9年前後の隊号の実態は、よくわからない（たとえば、聯隊の隊号が、最初に制定された時期等についても、判然としにくい）。これについては、さらに今後の課題として残される。

行進曲

『偕行B』に掲載されている、2026小節の行進曲は、

旧マルス（1～26番）
中マルス（27～116番）
新マルス（117～146番）
野営マルス（147～180番）
新野営マルス（181～194番）
楽マルス（195～218）

という6曲の行進曲（および、他のラッパ譜には掲載されていない219～240番）³⁰に分節することができる（タイトルは『歩兵喇叭譜簿』に依拠）。

この6曲は、『歩兵喇叭譜簿』と『偕行B』に掲載されていることから、少なくとも明治15～17年頃に、ラッパ手のレパートリーとなっていたことは間違いないだろう。『偕行B』の筆記者である政府金助が、1～218番を整然と書き記したのは、陸軍で用いられているすべてのラッパ行進曲を、記録として残そうとする意図があったのかもしれない。

『野口』には、「新マルス」「新野営マルス」が掲載されていないので、明治9年頃には存在せず、後にレパートリーとして加わったように見える。しかし、『野口』に収録されている「旧（舊）マルス」について、明治9年の時点で「旧」と表記しているということは、すでに「新」が存在することを前提としていると考えるのが自然であろう（「新」

が登場することによって、既存曲が初めて「旧」と認識されるのであり、「新」が存在しなければ、「旧」とは記さないはずなので)。そうであるなら、明治9年に「新マルス」は存在していたが、『野口』には記載されなかったということになるのかもしれない。あるいは、「新」は存在しなかったが、「旧マルス」というタイトルの行進曲を、フランスから受容した、ということを示しているとも考えられるが、フランスのラッパ譜で、一群の行進曲を「古い行進曲」として掲載しているようなラッパ譜は見当たらない³¹。

洋の東西を問わず、ラッパ伝習の現場は、必ずしも楽譜に基づくものではなく、どちらかというと口頭伝承的であるはずなので、楽譜は存在しなくとも、「古い行進曲」と呼ばれていた行進曲があった可能性もある。今後の課題として残ることになるが、同時期の陸軍に関する資料のなかで、「旧マルス」「新マルス」等の用例を精査することによって、これは解決するかもしれない。

いずれにせよ、『偕行B』には、「旧」「中」「新」という順序で行進曲が並んでおり、「旧マルス」に対する「新マルス」、そしてその中間に位置する「中マルス」として、タイトルの意味を読み取ることができる。

既に確認したように、各ラッパ譜に掲載された行進曲を、それぞれ比較すると、部分的に微妙に異なっている箇所がある。もっとも顕著な違いは、6/8拍子の小節の有無である。

「旧マルス」や「中マルス」等についての説明でも指摘したように、『野口』の行進曲に例外的に存在する6/8拍子の小節のすべては、『歩兵喇叭譜簿』『偕行B』には存在しない。また、『歩兵喇叭譜簿』の「新マルス」についても、実質的に6/8拍子とみなせる48小節が、『偕行B』では32小節が存在せず、12小節は2/4拍子に変換されている。

いくつかの「諸号音」にバリエーションが存在するように、フランスの行進曲にも、6/8を含むバージョンと、6/8を含まない（あるいは2/4に変換された）バージョンがあり、そのいずれかを、各ラッパ譜に掲載していた、と推理することもできるかもしれない。

しかしながら、はっきりとした根拠を提示することはできないが、これは6/8を意図的に削除・変換したように見えてならない。おそらく、当時の日本人ラッパ手が、6/8拍子という——それまでの日本の音楽には存在しない——独特な複合拍子を会得することが、かなり難しかったため、行進曲から意識的に削除・変換したように思える。概していうと、当時のラッパ手の技量は、ある程度は高かったと推測してよいだろう。たとえば、「楽マルス」のような、2重奏や3重奏の演奏がきちんと成立するには、2パート、3パートの音高やリズムが揃うこと不可欠である。実際、明治10年9月の西南戦争の記録には、ラッパ手たちが「楽マルス」の練習をしたことが記されているので³²、それに吹奏できたことは間違いない。しかし、一連の6/8拍子の削除・変換から見えてくるのは、日本人ラッパ手のリズム感の限界と、それに対する現実的な対処である³³。

「諸号音」の多くが、フランスのラッパ譜にオリジナルを見つけ出すことができるのとは対照的に、「行進曲」は、「旧マルス」「中マルス」の多くの部分、「楽マルス」についてはすべての小節について、フランスのラッパ譜に起源を求めることができない（ただし、管見の限りであって、未発見のフランスのラッパ譜に掲載されているかもしれな

い）。例外的に、「新マルス」や「新野営マルス」は、フランスのラッパ譜に、対応する行進曲が存在するが、これとて、ところどころ順序が入違っていたり、欠落があったりして、該当箇所がまったく同一で、そのまま用いられているというわけではない。拙論（奥中 2019）でも述べたように、やはり、素材としてフランスの行進曲が借用されつつも、全体としては、日本で行進曲が新たに編纂されたと推定するのが妥当である。その中に、日本で作られた部分があったとしても不思議ではない。

フランスにおいても、公式に制定され、基本的には軍隊全体で統一されていなければならない「諸号音」とは異なり、「行進曲」は、行進用の伴奏音楽でさえあれば十分なので、楽譜に残された行進曲は、現場の演奏実践のごく僅かな部分でしかないことが窺える。

日本においても、この当時に公式に制定されたオリジナルのラッパ譜の「原本」にあたるものが、そもそも存在したのかどうか——フランスと異なり、「諸号音」についても「原本」のようなものがあったのかどうか——、よくわかっていないことが、本研究を難しくしている。

『偕行A』『偕行B』が、教導団出身の政府金助によって作成されたものであるとしても、これは原本ではなく、一人のラッパ手の所持品にすぎない。まして野口吉右衛門（『野口』）、渡邊三四郎（『歩兵喇叭譜簿』）、中島兼重（『喇叭記帳』）に関しては、政府よりも中央から遠いところにいた末端のラッパ手たちである。

とはいえ、使われていた5点の楽譜を比較検討することによって見えてくるのは、厳密な意味での「原本」の存在や明確な実像ではなく、口伝と紙媒体を併用したことによって生じた、輪郭が曖昧なラッパ譜の姿である。だからこそ、『陸海軍喇叭譜』（1885）の制定が切望されたのではないだろう。

本稿は、限られた資料に基づいていることから、今後、新たなラッパ譜が発見されることで、訂正・修正を免れないことを断っておく。

参考文献

- 奥中康人2018「近代群馬における消防ラッパ譜の制定とその変遷について」『静岡文化芸術大学研究紀要』（18）65～90頁。
 奥中康人2019「『陸海軍喇叭譜』（1885）制定以前の陸軍フランス式ラッパ譜について」『静岡文化芸術大学研究紀要』（19）49～68頁。
 奥中康人2021「西南戦争で陸軍が用いたラッパ信号と「喇叭暗号」を巡る混乱」『静岡文化芸術大学研究紀要』（21）225～241頁。
 永井建子1920「洋楽音楽の起点から歩み来た陸軍々楽隊（其一）」『月刊楽譜』（1920年11月）8～10頁。
 宮代町教育委員会2002『宮代町史 通史編』（ぎょうせい）

- フランスのラッパ譜（すべてBibliothèque nationale de France）
 『仏1865』：P. Clodomir, *Méthode complète pour clairon d'ordonnance*, 1865.
 『仏1869a』：*Sonneries générales du clairon selon l'ordonnance du 16 Mars 1869*, 1871.
 『仏1869b』：A. Lagard, *Méthode de clairon d'ordonnance*, 1869.
 『仏1875』：*Règlement du 12 juin 1875 sur les manœuvres de l'infanterie*. Ministère de la guerre, 1877.
 『仏1877a』：*Manuel des petites armes et exercices divers*. Ministère de la Marine et des Colonies, Ministère de la Marine et des Colonies, 1877.
 『仏1877b』：J. B. Dias, *Sonneries d'ordonnance pour clairon*, 1877.

- ¹（宮代町教育委員会 2002）567頁。宮代町立図書館、宮代町デジタル郷土資料でも閲覧可能。（<https://trc-adeac.trc.co.jp/WJ11EO/WJJ06U/1144205100/1144205100100010/ht400780>）
- ²野口吉右衛門は、本来なら「前へ」「後へ」と記すべきところを、「前ヒ」「後ヒ」と記している。これは、文字の誤記ではなく、自身の発音（転訛）を書き留めたことに起因しているだろう。このことも、野口が、お手本のラッパ譜を写譜したのではなく、頭に記憶しているラッパ譜を思い出して書いていることを裏付ける。
- ³この時期のラッパ譜が、どのような基準で分類されていたのかは、よくわからない。とりあえず本稿では、敬礼・日課号音・教練・招呼等のラッパ譜をひとまとめにして「諸号音」、聯隊や大隊、諸学校に対して与えられたラッパ譜を「隊号」（当時「オルフラン」とも呼ばれていた）、そして、「行進曲」という、3つのカテゴリーを設けた。
- ⁴明治43年になって、渡邊三四郎の子とみられる渡邊平太郎が、『歩兵喇叭譜簿』を「唱歌帳」として使った形跡が残っている（ラッパ譜が記載されていない空五線譜に、「海国男子」、「卒業式」、「行ケドモ」、「コケツニイラバ」（冒頭のみ）、「白虎隊」の歌詞や数字譜を後から記載している）。一丁表には、「新潟県北蒲原郡笹岡村大字上一分／明倫尋常小学校第六学年生徒」と書いてあり、この「笹岡」や「上一分」は、現在の阿賀野市内の地名である。ここから「大字勝屋」は、阿賀野市の勝屋と推定できる（上一分と勝屋は近距離である）。
- ⁵収録曲は、明治18年（1885）の『陸海軍喇叭譜』とほぼ同一。
- ⁶全体で150頁（白紙、空五線譜の頁を含む）。「諸号音」「隊号」「行進曲」が収録されている。
- ⁷全体で130頁（白紙、空五線譜の頁を含む）。「行進曲」だけが収録されている。
- ⁸（奥中 2019）でも述べたが、この推定は、『偕行A』に、明治16年（1883）5月までに制定された工兵隊の隊号が収録されていること、および、明治17年（1884）夏に創設された歩兵第18連隊の隊号が、後から追記されている（異なるインクで加筆されている）ことによる。
- ⁹『仏1875』の132～160頁に掲載されているラッパ譜。ただし、147～149頁の「L'École du deuxième degré」「Le Cours du troisième degré」「Le Cours de chant」（これらは実質的に「L'École du premier degré」と同一）と、151頁の大隊の隊号（Les refrains des bataillons）と中隊の隊号（Les refrains des compagnies）を省いた。
- ¹⁰同様に、「Le pas accéléré」は、後述する行進曲の一部分として含まれており、また「La Bérloque」は単独では記載されていないが、「掃除」等のラッパ譜に含まれているので、野口吉右衛門が、この2曲を知らなかったとは考えられない。
- ¹¹「掃除」は、「La Corvée du quartier」の系統（「Aux caporaux」＋「La Bérloque」）と、「La Corvée de l'ordinaire」の系統（「Aux caporaux」＋「La Bérloque」＋「Le Rappel」）の2系統に分かれている。前者は「野口」、『歩兵喇叭譜簿』、『偕行A』『異稿』。後者は『偕行A』と『喇叭記帳』。
- ¹²この時期の日本陸軍が用いた、フランス式のラッパ譜の印刷譜は確認されていない。
- ¹³「La Soupe」について言えば、『仏1875』は「タタタ・タン」型（譜例9）だが、『仏1869a』や『仏1877a』は「タン・タタタ」型（譜例8）になっており、フランスにおいても両者が混在していたことが判る。
- ¹⁴幕末から明治初期にかけて、ギュティック、ブラン、ダグロン、プリナッシュなど、複数のフランス人ラッパ教師が、日本人ラッパ手たちに微妙に異なるメロディを教えた可能性がある。永井建子は、明治初年のラッパ教官の小篠秀一と、沼津兵学校ラッパ教官の梅澤有久が「奏法の行違ひを争ふた」というエピソードを述べているが（永井建子1920）、ひょっとすると、この「奏法の行違ひ」とは、ラッパ譜のバリエーションと関係があるかもしれない。
- ¹⁵ただし、「Ralliement sur le Réserve」を除く4つの集合（Ralliment）ラッパ譜の日本語タイトルは、フランス語タイトルの意味とは少しズレている。これが誤りなのか、意図的な転用なのかは分からない。
- ¹⁶「（タイトルのない靖国神社参拜式）」は、「シヨコンシヤレイシキ」の第7小節目が欠落している（音楽的に不自然なので、「（タイトルのない靖国神社参拜式）」が間違っていると考えられる）。
- ¹⁷『仏1877a』
- ¹⁸フランス機動警備隊の音楽家、Axel Chagnon氏の御教示による。
- ¹⁹（奥中 2021）234～233頁。
- ²⁰（奥中 2019）では、後半の数百小節が、2重奏・3重奏であることに気づかず、重複して小節数をカウントしてしまったため、2326小節としてしまった。これは単純なミスである。この全2026小節に、『偕行A』に収録されている行進曲はすべて含まれるので、これ以降、『偕行A』の行進曲については言及しない。

- ²¹8小節毎に終止線は引かれているものの、旋律のリズムや音型をみると、明らかに16小節（8+8）で1つのまとまりになっているところも多い。
- ²²『野口』は、音符の音価、小節線の位置が不正確であるため、小節数の確定が難しいが、他のラッパ譜を参照することにより推定できる（他の行進曲についても同様）。
- ²³他のラッパ譜では、「Pour le pas de charge」（『仏1877b』）の前半8小節、あるいは、「Marche en avant」（『仏1865』）の前半8小節として掲載されている。
- ²⁴『喇叭記帳』にも、「ヤヌお古しはうてよい」（野宮おこし発程用意？）として収録されている。「お古し」は、『野口』の「道中おこし」にも用例があり、「起し太鼓」のような、何かの開始を意味する「起し」か。
- ²⁵『偕行A』には同じ16小節が収録されており、その前半の8小節は（『偕行A』に記されている）歩兵第6聯隊の隊号と一致する（奥中 2019）。
- ²⁶タイトル「六聯隊まるす」は、この16小節だけを指しているのか、全208小節を指しているのかは不明。
- ²⁷ただし、209～688小節（28～86番）の後に、1～208小節（1～27番）が記載されている。
- ²⁸本稿冒頭で言及した、群馬の消防ラッパ譜『喇叭符号手帳』の「中丸ス」は、『歩兵喇叭譜簿』「中マルス」3～25番（『偕行B』27～51番）と同一である。
- ²⁹ただし、「デイレエシキマルス」7番（12小節）（譜例28）の1～4小節は、「楽マルス」7番（譜例29）の1～4小節と類似しているが、5～8小節は異なる。「デイレエシキマルス」7番の5～12小節は、「楽マルス」8番（譜例30）とほぼ同じである。



譜例28 「デイレエシキマルス」7番 『野口』



譜例29 「楽マルス」7番 『歩兵喇叭譜簿』



譜例30 「楽マルス」8番 『歩兵喇叭譜簿』

- ³⁰この219～240番はすべて6/8拍子。219～238番は8小節単位だが、239～240番だけは9小節単位という、かなり異例の小節数で終わっている。
- ³¹『仏1869b』には、「Vingt pas accélérés originaux」というタイトルの行進曲は存在するが、日本の「旧マルス」と同一ではない。
- ³²（奥中 2021）237頁。
- ³³「諸号音」の中に、6/8拍子の曲はそれなりに存在するが、6/8拍子を2/4に変換するような例は見あたらない。

【表1】

	仏 1875 年	野口 1876 年	歩兵喇叭符簿 1882 年	偕行 A 1883 ~ 84 年	喇叭記帳 1885 年
1	La Générale	○	○	○	
2	L'Assemblée	○	○	○	○
3	Le Rappel	○	○	○	○
4	Au Drapeau	○	○	○	○
5	Aux champs	○	○	○	○
6	Le pas accéléré		○	○	
7	Le pas gymnastique	○	○	○	○
8	Le pas de charge	○	○	○	○
9	Le Réveil	○	○	○	○
10	La Retraite	○	○	○	○
11	Le Ban	○	○	○	○
12	La Messe	○			
13	La Bérloque		○	○	○
14	Le Rappel (aux clairon)	○	○	○	○
15	L'Appel	○	○	○	○
16	A l'Ordre		○	○	○
17	Aux sergents-majors	○	○	○	
18	Aux sergents	○	○	○	
19	Aux fourriers	○	○	○	
20	Aux caporaux	○	○	○	
21	La Soupe	○	○	○	○
22	Le Garde-à-vous	○	○	○	○
23	Baionnette au canon	○	○	○	○
24	Remettre la baionnette	○	○	○	○
25	Extinction des feux	○	○	○	○
26	La Diane				
27	Le Rigodon				
28	La Corvée du quartier	○	○	○	
29	La Corvée de l'ordinaire			○	○
30	Aux malades	○	○	○	○
31	Aux fourriers de distribution	○		○	○
32	L'École du premier degré	○	○	○	○
33	Aux hommes punis	○	○	○	
34	Aux sous-officiers punis			○	
35	Au Piquet	○	○	○	○
36	Le pas de course		○	○	
37	En tirailleurs	○	○	○	○
38	En avant	○	○	○	○
39	En retraite	○	○	○	○
40	Halt		○	○	○
41	Par le flanc droit	○	○	○	○
42	Par le flanc gauche	○	○	○	○
43	Commencez le feu	○	○	○	○
44	Cessez le feu	○	○	○	○
45	Couchez-vous	○	○	○	○
46	Levez-vous	○	○	○	○
47	Ralliement	○	○	○	○
48	La Rassablement		○	○	○
49	Cavalerie venant à droite		○	○	
50	Cavalerie venant à gauche		○	○	
51	Cavalerie venant sur le front		○	○	

【表2】

野口 1876 年	歩兵喇叭符簿 1882 年	偕行 A 1883 ～ 84 年	喇叭記帳 1885 年
	近工第一聯隊記号	近衛一聯隊	近衛一聯隊
	全第二聯隊記号	全二聯隊	近衛二聯隊
	東京鎮台 歩兵第一聯隊記号	鎮台一聯隊	歩兵一聯隊
聯隊			
	全第二聯隊 佐倉	全二聯隊	タイトルなし
	第三聯隊 高崎	全三聯隊	三聯隊
	第四聯隊 仙台	全四聯隊	四聯隊
	第五聯隊 青森	全五聯隊	五聯隊
	第六聯隊 名古屋	全六聯隊	六聯隊
	第七連隊 金沢	全七聯隊	七聯隊
	第八聯隊 大坂	全八聯隊	八聯隊
	第九聯隊 姫路	全九聯隊	九聯隊
	第十聯隊 大津	全十聯隊	十聯隊
	第十一聯隊 廣島	全十一聯隊	十一聯隊
	第十二聯隊 廣島丸 亀	全十二聯隊	十二聯隊
	第十三聯隊 熊本	全十三聯隊	十三聯隊
	第十四聯隊 小倉	全十四聯隊	十四聯隊
		十八聯隊	十八聯隊
			十九聯隊
	士官学校	士官校	士官が古
	戸山学校記号	戸山校	藤山が古
	歩兵教導団一大隊	団歩	歩兵東京山
	教導団工兵	団工	歩兵ノ工兵東京山
	近工工兵	近衛工兵	近衛工兵
	鎮台工兵一大隊	東京鎮台工兵大隊	工兵一大隊
	近工一■般	近衛歩兵	近衛いつばん
		仙台工兵	工兵一中隊
		名古屋工兵	工兵二中隊
		大坂工兵	工兵二大隊
		広島工兵	工兵三中隊
		熊本工兵	工兵三大隊
壱大隊		歩兵第一大隊	壱大隊
貳大隊			
		全二大隊	貳大隊
三大隊			
		全三大隊	三大隊
		タイトルなし	一中隊
		タイトルなし	二中隊
		タイトルなし	三中隊
		タイトルなし	四中隊
		タイトルなし	

【表4】

野口 1876 年			歩兵喇叭符簿 1882 年			偕行 B 1883 ~ 84 年			喇叭記帳 1885 年		
舊マルス			旧マルス			タイトルなし			六連隊まるす		
248 小節			192 小節			208 小節			208 小節		
									1	2/4	16 小節
						1	2/4	8 小節	2	2/4	8 小節
						2	2/4	8 小節	3	2/4	8 小節
1	2/4	8 小節	1	2/4	8 小節	3	2/4	8 小節	4	2/4	8 小節
2	2/4	8 小節	2	2/4	8 小節	4	2/4	8 小節	5	2/4	8 小節
3	2/4	8 小節	3	2/4	8 小節	5	2/4	8 小節	6	2/4	8 小節
4	2/4	8 小節	4	2/4	8 小節	6	2/4	8 小節	7	2/4	8 小節
5	2/4	8 小節	5	2/4	8 小節	7	2/4	8 小節	8	2/4	8 小節
6	2/4	8 小節	6	2/4	8 小節	8	2/4	8 小節	9	2/4	8 小節
7	2/4	8 小節	7	2/4	8 小節	9	2/4	8 小節	10	2/4	8 小節
8	2/4	8 小節	8	2/4	8 小節	10	2/4	8 小節	11	2/4	8 小節
9	2/4	8 小節	9	2/4	8 小節	11	2/4	8 小節	12	2/4	8 小節
10	2/4	8 小節	10	2/4	8 小節	12	2/4	8 小節	13	2/4	8 小節
11	2/4	8 小節	11	2/4	8 小節	13	2/4	8 小節	14	2/4	8 小節
12	2/4	8 小節	12	2/4	8 小節	14	2/4	8 小節	15	2/4	8 小節
13	2/4	8 小節	13	2/4	8 小節	15	2/4	8 小節	16	2/4	8 小節
14	2/4	8 小節	14	2/4	8 小節	16	2/4	8 小節	17	2/4	8 小節
15	2/4	8 小節	15	2/4	8 小節	17	2/4	8 小節	18	2/4	8 小節
16	2/4	8 小節	16	2/4	8 小節	18	2/4	8 小節	19	2/4	8 小節
17	6/8	8 小節									
18	6/8	8 小節									
19	2/4	8 小節	17	2/4	8 小節	19	2/4	8 小節	20	2/4	8 小節
20	2/4	8 小節	18	2/4	8 小節	20	2/4	8 小節	21	2/4	8 小節
21	6/8	8 小節									
22	6/8	8 小節									
23	2/4	12 小節									
24	2/4	12 小節									
25	2/4	8 小節	19	2/4	8 小節	21	2/4	8 小節	22	2/4	8 小節
26	2/4	8 小節	20	2/4	8 小節	22	2/4	8 小節	23	2/4	8 小節
27	2/4	8 小節	21	2/4	8 小節	23	2/4	8 小節	24	2/4	8 小節
28	2/4	8 小節	22	2/4	8 小節	24	2/4	8 小節	25	2/4	8 小節
29	2/4	8 小節	23	2/4	8 小節	25	2/4	8 小節			
30	2/4	8 小節	24	2/4	8 小節	26	2/4	8 小節			

【表5】

野口 1876 年	歩兵喇叭符簿 1882 年	偕行 B 1883～84 年
タイトルなし	中マルス	タイトルなし
688 小節	736 小節	720 小節
1	1	
2	2	
3	3	27
4	4	28
5	5	29
6	6	30
7	7	31
8	8	32
9	9	33
10	10	34
11		
12		
13	11	35
14	12	36
15	13	37
16	14	38
17	15	39
18	16	40
19	17	41
20	18	42
21	19	43
22	20	44
23	21	45
24	22	46
25	23	47
26	24	48
27	25	49
28	26	50
29	27	51
30	28	52
31	29	53
32	30	54
33	31	55
34	32	56
35	33	57
36	34	58
37	35	59
38	36	60
39	37	61
40	38	62
41	39	63
42	40	64
	41	65
	42	66
	43	67
	44	68
	45	69

	46	70
	47	71
	48	72
43	49	73
44	50	74
45	51	75
46	52	76
47	53	77
48	54	78
49	55	79
50	56	80
51	57	81
52	58	82
53	59	83
54	60	84
55	61	85
56	62	86
57	63	87
58	64	88
59	65	89
60	66	90
61	67	91
62	68	92
63	69	93
64	70	94
65	71	95
66	72	96
67	73	97
68	74	98
69	75	99
70	76	100
71	77	101
72	78	102
73	79	103
74	80	104
75	81	105
76	82	106
77	83	107
78	84	108
79	85	109
80	86	110
81	87	111
82	88	112
83	89	113
84	90	114
85	91	115
86	92	116

すべて8小節単位。

『野口』11～12番のみ6/8拍子（他はすべて2/4拍子）。

【表6】

仏 1875 年		歩兵喇叭符簿 1882 年		偕行 B 1883 ~ 84 年	
		新マルス		タイトルなし	
		272 小節		240 小節	
Marches pour clairon seul	Deuxième marche	1	2/4	117	2/4
		2	2/4	118	2/4
	Troisième marche	3	2/4	119	2/4
		4	2/4	120	2/4
	Quatrième marche	5	2/4	121	2/4
		6	2/4	122	2/4
	Cinquième marche	7	2/4	123	2/4
		8	2/4	124	2/4
	Sixième marche	9	2/4	125	2/4
		10	2/4	126	2/4
	Septième marche	11	2/4	127	2/4
		12	2/4	128	2/4
	Neuvième marche	13	2/4	129	2/4
		14	2/4	130	2/4
Marches avec tamboures et clairons reunis	Première marche	15	2/4	131	2/4
		16	2/4	132	2/4
	Deuxième marche	17	2/4	133	2/4
		18	2/4	134	2/4
	Troisième marche	19	2/4	135	2/4
		20	2/4	136	2/4
	Quatrième marche	21	6/8*		
		22	6/8*		
	Cinquième marche	23	6/8*		
		24	6/8*		
	Sixième marche	25	2/4	137	2/4
		26	2/4	138	2/4
	Septième marche	27	2/4	139	2/4
		28	2/4	140	2/4
	Huitième marche	29	6/8*	141	2/4
		30	6/8*	142	2/4
	Neuvième marche**	31	2/4	143	2/4
		32	2/4	144	2/4
	Dixième marche	33	2/4	145	2/4
		34	2/4	146	2/4

すべて8小節単位

* 拍子記号は2/4拍子だが、音楽は実質的に6/8拍子

** 日本のラッパ譜と少し異なる

【表7】

仏		野口 1876 年			歩兵喇叭符簿 1882 年			偕行 B 1883～84 年			
		帰宮行進			野宮マルス			タイトルなし			
		296 小節			340 小節			340 小節			
Marches de retraite pour clairon 『仏 1875』 Quatrième marche. 2/4 20 小節		1	2/4	10 小節	1	2/4	10 小節	147	2/4	10 小節	
		2	2/4	10 小節	2	2/4	10 小節	148	2/4	10 小節	
Marches de retraite pour clairon 『仏 1875』 Première marche. 2/4 20 小節		3	2/4	10 小節	3	2/4	10 小節	149	2/4	10 小節	
		4	2/4	10 小節	4	2/4	10 小節	150	2/4	10 小節	
		5	2/4	10 小節	5	2/4	10 小節	151	2/4	10 小節	
		6	2/4	10 小節	6	2/4	10 小節	152	2/4	10 小節	
		7	2/4	10 小節	7	2/4	10 小節	153	2/4	10 小節	
		8	2/4	10 小節	8	2/4	10 小節	154	2/4	10 小節	
Marches de retraite pour clairon 『仏 1875』 Deuxième marche. 2/4 前半 10 小節		9	2/4	10 小節	9	2/4	10 小節	155	2/4	10 小節	
		10	2/4	10 小節	10	2/4	10 小節	156	2/4	10 小節	
		11	2/4	10 小節	11	2/4	10 小節	157	2/4	10 小節	
		12	2/4	10 小節	12	2/4	10 小節	158	2/4	10 小節	
		13	2/4	10 小節							
		14	6/8	10 小節							
		15	6/8	10 小節							
		16	2/4	10 小節	14	2/4	10 小節	160	2/4	10 小節	
		17	6/8	10 小節							
		18	6/8	10 小節							
		19	2/4	10 小節	13	2/4	10 小節	159	2/4	10 小節	
		20	6/8	10 小節							
Trente pas accélérés 『仏 1865』		新帰宮進									
		1	2/4	8 小節	15	2/4	10 小節	161	2/4	10 小節	
		2	2/4	8 小節	16	2/4	10 小節	162	2/4	10 小節	
		3	2/4	8 小節	17	2/4	10 小節	163	2/4	10 小節	
		4	2/4	8 小節	18	2/4	10 小節	164	2/4	10 小節	
		5	2/4	8 小節	19	2/4	10 小節	165	2/4	10 小節	
		6	2/4	8 小節	20	2/4	10 小節	166	2/4	10 小節	
					21	2/4	10 小節	167	2/4	10 小節	
					22	2/4	10 小節	168	2/4	10 小節	
		①	2/4	16 小節		23	2/4	10 小節	169	2/4	10 小節
		②	2/4	16 小節		24	2/4	10 小節	170	2/4	10 小節
					25	2/4	10 小節	171	2/4	10 小節	
③	2/4	16 小節		26	2/4	10 小節	172	2/4	10 小節		
			27	2/4	10 小節	173	2/4	10 小節			
④	2/4	16 小節	7	2/4	8 小節	28	2/4	10 小節	174	2/4	10 小節
			8	2/4	8 小節	29	2/4	10 小節	175	2/4	10 小節
⑤	2/4	16 小節	9	2/4	8 小節	30	2/4	10 小節	176	2/4	10 小節
			10	2/4	8 小節	31	2/4	10 小節	177	2/4	10 小節
⑥	2/4	16 小節	11	2/4	8 小節	32	2/4	10 小節	178	2/4	10 小節
			12	2/4	8 小節	33	2/4	10 小節	179	2/4	10 小節
						34	2/4	10 小節	180	2/4	10 小節
					新野宮マルス			タイトルなし			
					140 小節			140 小節			
Marches de retraite pour clairon 『仏 1875』					1	2/4	10 小節	181	2/4	10 小節	
					2	2/4	10 小節	182	2/4	10 小節	
					3	2/4	10 小節	183	2/4	10 小節	
					4	2/4	10 小節	184	2/4	10 小節	
					5	2/4	10 小節	185	2/4	10 小節	
					6	2/4	10 小節	186	2/4	10 小節	
					7	2/4	10 小節	187	2/4	10 小節	
					8	2/4	10 小節	188	2/4	10 小節	
					9	2/4	10 小節	189	2/4	10 小節	
					10	2/4	10 小節	190	2/4	10 小節	
					11	2/4	10 小節	191	2/4	10 小節	
					12	2/4	10 小節	192	2/4	10 小節	
			13	2/4	10 小節	193	2/4	10 小節			
			14	2/4	10 小節	194	2/4	10 小節			

【表8】

野口 1876 年			歩兵喇叭符簿 1882 年			偕行 B 1883 ~ 84 年		
デイレエシキマルス (大礼式マルス?)			楽マルス			タイトルなし		
144 小節			168 小節			200 小節		
1	二重奏	12 小節	1	二重奏	12 小節	195	二重奏	12 小節
2		8 小節	2		8 小節	196		8 小節
3		8 小節	3		8 小節	197		8 小節
4		8 小節	4		8 小節	198		8 小節
5		8 小節	5		8 小節	199		8 小節
6		8 小節	6		8 小節	200		8 小節
7		12 小節	7		8 小節	201		8 小節
			8		8 小節	202		8 小節
8	二重奏	8 小節	9		8 小節	203		8 小節
9		8 小節	10		8 小節	204		8 小節
10		8 小節	11		8 小節	205		8 小節
11		8 小節	12		8 小節	206		8 小節
12	三重奏	8 小節	13	三重奏	8 小節	207	三重奏	8 小節
13		8 小節	14		8 小節	208		8 小節
14		8 小節	15		12 小節	209		12 小節
15		8 小節	16		8 小節	210		8 小節
16		8 小節	17		8 小節	211		8 小節
17		8 小節	18		8 小節	212		8 小節
			19		8 小節	213		8 小節
			20		8 小節	214		8 小節
						215		8 小節
						216		8 小節
						217		8 小節
						218		8 小節